

作成日 2020年04月10日

製品安全データシート

1 製品及び会社情報

製品名	メラ冷温水槽用洗浄剤（アルカリ系）HTP-1
会社	泉工医科工業株式会社 商品企画本部 循環器部
住所	〒113-0034 東京都文京区湯島2-30-7
電話番号	03(3812)3254

2 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性：	
引火性物質	区分外
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分4
急性毒性（経皮）	区分4
皮膚腐食性／刺激性	区分2
目に対する重篤な損傷／目刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分1B
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分1A
特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）	区分2
特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）	区分1
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水性環境性有害性	区分2
水性環境慢性有害性	区分2
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル表示

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

飲み込むと有害

皮膚に接触すると有害

皮膚刺激

重篤な目の損傷

遺伝性疾患のおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

臓器の障害のおそれ

長期または反復暴露による臓器の障害
 水性生物に毒性
 長期的影響により水性生物に非常に強い毒性

注意書き

<安全対策>

環境への放出は避けること
 取り扱い後は良く手などを洗うこと

<応急処置>

目に入った場合

目に入った場合は流水で少なくとも15分間以上洗眼する。コンタクトレンズははずし、洗眼の際、瞼を指で良く開いて眼球、瞼の隅々まで水が行き渡るようにする。刺激等の異常が残る場合には直ちに医師の診断を受ける。

吸入した場合

直ちに多量の水でうがいをする。異常があれば医師の診断を受ける。

皮膚に付いた場合

皮膚に対し軽度の刺激が残るので清水を使って洗い流す。刺激が残る場合は医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに口をゆすぐこと。同時に水を飲んで薄め吐き出させる。異常があれば医師の診断を受ける

<保管>

液が漏出しないように使用後は必ず密封する。
 高温多湿、火気などを避ける。容器を転倒させたり、落下させたり等の乱暴な取扱いをしない。

<廃棄>

廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、都道府県の許可を得た業者に委託すること。

3 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

含有成分及び含有量

(成分名)

塩化セチルトリメチルアンモニウム

(含有量w t %)

11.0±1.0

(CAS. NO)

1 1 2 - 0 2 - 7

(国内適用法令)

安衛法、PRTR法

塩化ベンザルコニウム

13.5±1.5

6 8 4 2 4 - 8 5 - 1

無し

キレート剤

4.5±0.5

非公開

無し

エタノール

4.5±0.5

6 4 - 1 7 - 5

安衛法

ラウリルジメチルアミンオキサイド

3.0±0.5

1 6 4 3 - 2 0 - 5

PRTR法

ノニオン系界面活性剤

0.9±0.05

非公開

無し

赤色素

微量

非公開

無し

精製水

バランス

7 7 3 2 - 1 8 - 5

無し

4 応急措置

目に入った場合

目に入った場合はで少なくとも15分間以上洗眼する。コンタクトレンズははずし、洗眼の際、瞼を指で良く開いて眼球、瞼の隅々まで水が行き渡るようにする。刺激等の異常が残る場合には直ちに医師の診断を受ける。

吸入した場合

多量にミスト等吸引した場合、直ちに新鮮な空気のところへ移し保温しながら安静にする。呼吸が困難な場合、ネクタイ・ベルト・ウエストバンド等の衣類の締め付けを緩めて

人工呼吸を行う。呼吸が不規則な場合や吐き気がする場合、気分が回復しない場合は直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付いた場合

ただちに付着した部位を多量の水と石鹼を使って洗い流す。刺激が残る場合は医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに水で口を洗った後コップ1～2杯の水を飲ませ吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。意識のない場合は、口から何も与えてはならない

5 火災時の措置

消火方法

火元から延焼するものを遠ざける。初期消火には粉末、炭酸ガス、泡消火器を用いる。周辺火災の場合は、速やかに充填容器を安全な場所に移す。

消火者の保護

適切な保護具（保護手袋、保護マスク、保護眼鏡）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項

漏洩した場所にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。

適切保護具を着用する。（保護手袋、保護マスク、保護めがね保護前掛けなど）

環境に対する注意事項

漏出区域周辺を多量の水で洗い流すこと。洗浄した水は地面や排水溝などにそのまま流さないこと。

回収・中和

漏洩した液は少量の場合、おがくず、土砂、紙等に吸収させて空容器に回収する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意

換気の良い場所で使用、容器は使用後密栓する。

ミストの発散はできるだけ抑える。

取扱時は適切な保護具を着用する。

取り扱い後は、うがい、洗顔を行うこと。作業衣などに付着した場合は着替えること。

保管上の注意

製品容器は、直射日光、高温多湿、火気などを避け密封して子供の手の届かない所に保管する。容器を転倒、落下させる等の乱暴な取扱いをしない。凍結の恐れのある場所での保管を避ける。

8 暴露防止措置及び保護処置

<組成物の有害性及び暴露濃度基準>

原料名	管理濃度	許容濃度 ACGIH	許容濃度 日本産業衛生学会	その他
塩化セチルトリメチル アンモニウム	未設定	未設定	未設定	情報なし
塩化ベンザルコニウム	未設定	未設定	未設定	情報なし
キレート剤	未設定	未設定	未設定	情報なし
エタノール	未設定	1000ppm	未設定	情報なし
ラウリルジメチルアミン オキサイド	未設定	未設定	未設定	情報なし
ノニオン系界面活性剤	未設定	未設定	未設定	情報なし
赤色素	未設定	未設定	未設定	情報なし

<製品>

管理濃度	規制なし
許容濃度	規制なし
設備対策	取扱いは換気の良い場所で行う
保護具	保護眼鏡、保護手袋等 保護マスク

9 物理及び化学的性質

外観	薄桃色透明液体
臭気	わずかにアルコール臭
比重	約1.00 (原液 20℃)
pH	約10 (1%希釈時)
溶解性	水に溶解する
凍結点	-6℃~-5℃
引火点	100℃以上
爆発限界	(下限) データなし (上限) データなし
蒸気圧	データ無し
可燃性	燃焼する
発火点	データなし
酸化性	なし

10 安定性及び反応性

安定性	通常取り扱い条件においては化学的に安定
避けるべき条件	高温 スパーク 裸火
混融危険物質	酸性物質と反応して発熱する
危険有害な分解生成物	燃焼してCO ₂ 、COを生成する

11 有害性情報

急性毒性 (経口)	区分4 LD ₅₀ (ATEmix) 約1500
急性毒性 (経皮)	区分外 LD ₅₀ (ATEmix) 約40000
皮膚腐食性/刺激性	区分2 塩化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム
目に対する重篤な損傷/目刺激性	区分1 塩化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム
呼吸器感受性	分類できない データ不足
皮膚感受性	分類できない データ不足
生殖細胞変異原性	区分1B エタノール顔料4.5%
発がん性	分類できない データ不足
生殖毒性	区分1A エタノール顔料4.5%
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分2 塩化セチルトリメチルアンモニウム
特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	区分1 塩化セチルトリメチルアンモニウム、 エタノール顔料4.5%
吸引性呼吸器有害性	分類できない データ不足

12 環境影響情報

水性環境性有害性	区分2 塩化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム
水性環境慢性有害性	区分2 塩化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム
オゾン層への有害性	分類できない データ不足

13 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法
環境への放出を避けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

1.4 輸送上の注意

国連分類	クラス 8
国連番号	1 7 6 0
容器等級	III
陸上輸送	取扱い及び保管上の注意の項に従う。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。
注意事項	運搬に際しては容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を完全に行う。

1.5 適用法令

消防法	非危険物
労働安全衛生法	安衛則 3 2 6 条 腐食性液体 エタノール 施行令 別表第 1 危険物 4 引火性の物 施行令 別表第 9 名称など通知すべき有害物 6 1
毒物及び劇物取締法	非該当
P R T R 法	第 1 種指定 ラウリルジメチルアミンオキサイド

1.6 その他の情報

引用文献

GHS 対応による混合物（化学物質）の MSDS 作成法の研修テキスト
中央労働災害防止協会
1 6 6 1 5 の化学商品 化学工業日報社 2 0 1 5 年版
製品安全データシート 各原料メーカー
GHS 分類対象物質一覧 独立行政法人 製品評価技術基盤機構
安全データシート（各原料メーカー）

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しており、上記の情報は新しい知見により改訂されることがあります。又危険有害性の評価は必ずしも十分ではないので製品の取扱いには充分注意して下さい。また、情報は安全を保証するものではありません。本品の適正な使用については使用者の責任において行ってください。